

女医による診療を実施

2014年実施のある調査によると、痔を自覚している人の医療機関への受診率は26・7%でした。「恥ずかしくて抵抗がある」「手術が怖い」といった理由で受診をためらい、出血や痛みを我慢している人が、かなりの数にのぼっています。

「手術が怖い」といった面では誤解があります。医療技術の進歩もあり、受診した患者さんで外科手術に至るケースは1〜2割ほどです。残りは、薬による保存療法や硬化療法で対応できています。

痔の受診にためらい不要

「女性肛門病専門外来」の利用を

日本人の3人に1人が痔に悩んでいると言われています。ところが、特に女性では恥ずかしさが受診の足を遠のかせる原因となっています。そこで、金沢医科大学病院では今年10月、同病院女性総合医療センター内に「女性肛門病専門外来」を新設しました。担当医である草間香特定教授に、同外来の詳細と痔の治療法について聞きました。

| 今月の回答者 |



くさま かほる
草間 香

金沢医科大学病院女性総合医療センター特定教授
日本大腸肛門病学会専門医
日本臨床肛門病学会認定医
内痔核治療法研究会会員 など

められる体制を整えています。

肛門周辺のうっ血が原因

「恥ずかしい」という点に関しては男性より女性のほうが強いかと思いますが、そうした羞恥心による心理的なハードルを下げるため、金沢医科大学病院では、「女性肛門病専門外来」を設け、私が診察を担当しています。

当病院2階の女性総合医療センター内に外来はあり、毎月第2・4水曜日に診療を行っています。患者さんは女性のみで、看護師を含めたスタッフも女性だけですから、ご安心ください。

また、日帰り手術が可能な外来手術室も病院では備え、患者さんに大きな負担をかけずに治療を進

一口に痔と言っても、基本的には3つの種類があります。①痔核（いぼ痔）②裂肛（切れ痔）③痔ろう（あな痔）です。さらに①痔核は、肛門内側の直腸粘膜にできる内痔核と肛門にできる外痔核の2タイプに分かれます。男女ともに痔の患者さんの多くを占めるのが①痔核で、症例数としては内痔核のほうが多数となっています。また、②裂肛は、男性よりも女性に発症しやすい傾向があります。

③痔ろうは、女性での発症が少

ないので、ここでは①②に絞って説明します。

肛門と直腸の境界周辺には動脈、静脈などの血管が集まるクッション部分があり、ここに負担がかかると特に静脈に血がたまり（うっ血）、部分的に腫れて「いぼ」のようなコブが成長します。これが、いわゆるいぼ痔―痔核です。

妊婦さんでは分娩時の出血を抑制するために、女性ホルモンの働きで血が固まりやすくなっています。これらが相乗して痔核ができてしまうのです。下半身の冷えも、うっ血の要因となります。

最新の硬化療法で改善

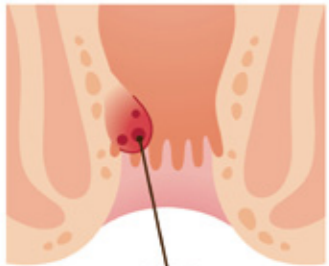
痔核に限らず、痔の症状は出血と痛みが共通していますが、内痔

便時のいきみのほか、立ちっぱなし、もしくは座りっぱなしといった長時間同じ姿勢でいること。

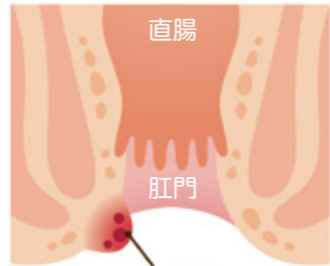
女性では妊娠・出産、冷えも挙げられます。

妊娠で子宮が大きくなると、肛門周辺の静脈が圧迫されて血流が停滞し、静脈内がうっ血します。加えて、

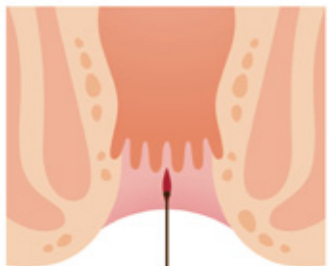
■痔の種類と発症しやすい箇所



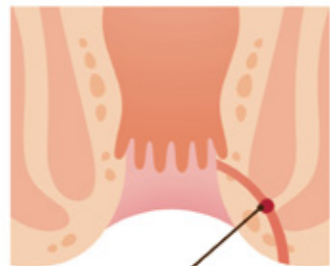
内痔核 (いぼ痔)



外痔核 (いぼ痔)



裂肛 (切れ痔)



痔ろう (あな痔)

痔の治療法は、患部の状態に応じて、薬による保存療法、注射による硬化療法、外科的に患部を切除する手術療法が選択されます。保存療法に用いられる薬は、坐薬、軟膏、内服薬の3種類です。これらの処方のほか、便秘や冷えにつながる生活習慣の改善も指導します。硬化療法は痔核を対象としています。近年、「ALTA療法」と呼ば

れる最新の治療法が普及しており、計4回にわたる薬液の注射で患部を固めてしまいます。

比較的症状の軽い痔核には、「ゴム輪結紮法」を用いるケースもあります。痔核の根元を小さなゴム輪で縛って血流を止め、壊死させる方法です。

出血はがんによる場合も

お尻の痛みや出血を痔のせいと思いついていたら、実は大腸がんだったというケースがあります。

そのほか、細菌感染が原因で膿がたまる肛門周囲膿瘍、肛門とその周辺がゆくくなる肛門搔痒症、直腸が肛門から出てしまう直腸脱といったお尻の病気があり、女性肛門病専門外来ではそうした病気にも幅広く対応しています。お尻の異常に悩まれている女性の方は、我慢せず、当センターにお越しください。